



1. 無風時

地上風系に卓越性なし。コンバージェンスライン及びインナーX・Cゾーンは北海道の形状をそのまま縮小した状態となる。春季この状態が生じると、500km以上のクロスカントリーフライトに最適の条件となる。

2. 南風卓越時

南からの地上風が卓越すると、留萌コンバージェンスライン及びオホーツクコンバージェンスラインが伸長し、北端は稚内付近にまで達することがある。一方富良野コンバージェンスライン及び十勝ラインは消失傾向となる。クロスカントリーは2つのアクティブなコンバージェンスラインに沿って200~400kmタスクを行うことが可能。

3. 西風卓越時

西風が卓越すると、留萌コンバージェンスライン及び富良野コンバージェンスラインが消失し、かわってウインドラインに沿ってクラウドストリートが発達する。クロスカントリーは滝川を西端として内陸部、及び道東エリアを用いることが合理的となる。

4. 北風卓越時

北風または北東風が卓越するとオホーツク沿岸及び道北エリアは通常冷たい海洋性気団にさらされるため、ローリングのStまたはクリアであっても全く対流の生じない大気状態となる。ただし十勝平野及び石狩地方南部ではソーリング可能。

図

各地上風系の卓越に伴うコンバージェンスライン及び海風からの保護エリアあるいはサーマル発生エリアの分布の変化に関するモデル。図中斜線部はクロスカントリーに適するサーマルの発生エリア、つまりタスクエリアを示す。(推測図)